

2004年(平成16年)12月14日

深刻な被害状況を報告

管路協・21世紀水倶楽部

中越地震下水道説明会

新潟県中越地震下水道被害緊急説明会が10日、東京都内で開かれた。被災地の下水道復旧の支援に当たった政府、地方自治体、関係団体の担当者がマンホールの浮上がりや下水道管閉塞などの深刻な被害状況の写真を映して報告した。約130人が出席、マンホール浮き上がりが目立った今回の地震の特徴などについて質疑応答があった。

主催は(株)日本下水道管路管理業協会とNPO法人・21世紀水倶楽部。入場者に地震被災地への義援金を呼びかけたところ5万円集まり、新潟県に贈ることになった。

同倶楽部の亀田泰武理事の司会で始まり、最初に安藤茂・同倶楽部副理事長が挨拶、今回の開催経緯などを述べたあと、被災死亡者を悼んで全員で黙祷した。

加藤裕之・国土交通省下水道事業課企画専門官が「下水道震災の調査、復旧の体制と作業の進行状況」を報告、復興支援本部を設置、延べ3700人以上を派遣し支援に当たったと述べた。

堀江信之・(株)下水道新技術推進機構研究第一部長は「下水道震災に関する緊急提言の概要」と題し、下水道地震対策技術検討委員会(田中和博委員長)がまとめた緊急提言を説明した。

山田和弘・国土技術政策総合研究所下水道研究室交流研究官は、復旧支援の第一陣として現地調査に当たった被害状況を報告。

大浪渉・横浜市北部下水道建設事務所長は川口町、旧堀之内町の下水道管きよ被害と復旧状況を報告、川口町のある地区では水道管、ガス管も同時に隣接して埋設しており、復旧工事が難航した」と述べた。



130人出席した中越地震下水道被害説明会

ぶりを紹介した。佐藤洋行・日本下水道事業団事業統括部事業課長は、池で応急処理した状況など下水道処理場の被災状況と対応を説明、堀之内処理場では運転不能となり仮設沈殿池で応急処理した状況などを述べた。